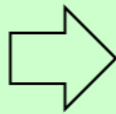


3世代による水稲作業の省力化と施設園芸の拡大 ～篠宮農場～

経営体の概要

ほ場整備前：平成5年
基幹作物：水稲、施設園芸
経営面積：13.2ha



現在：令和2年
基幹作物：水稲、施設園芸（トマト、上越野菜など）
経営面積：27.5ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

前歴及び現在実施中の国営かんがい排水事業により農業用水が安定供給され、平成4年度から開始された県営ほ場整備事業によって大区画化が推進されたことにより、水稲作業の省力化とともに施設園芸の取組面積を倍増させた。さらに、4年前に長男が新規就農、親子3世代で水稲27haと施設園芸50aの複合経営に取り組んでいる。施設園芸では、夏はトマト、水稲苗出荷後はトルコギキョウと一口まくわ（上越野菜※）、冬はアスパラ菜（上越野菜※）を栽培している。

※ 上越野菜とは、「上越野菜」振興協議会が、上越地域で古くから栽培されてきた伝統野菜（11品目）と一定の出荷量と品質を満たしている特産野菜（5品目）を認定したものの。

営農改善のポイント

①省力化

ほ場整備後は、50a～1haと大区画となったことで、畦畔の本数が少なくなり、草刈りなどの管理作業が省力化された。また、農道ターンでは乗用機械での草刈りも可能となった。ほ場整備によるこれら作業時間の省力化に伴い、施設園芸の取組面積を倍増している。

②栽培技術の確立・向上

用水のパイプライン化により取水設備がバルブとなったことから、追肥は流し込み肥料の使用が可能となった。

③流通・販売の工夫

水稲と施設園芸を取り入れた複合経営を行っており、水稲作では、販売店とともに消費者に求められる品種の栽培計画を立てるとともに、施設園芸では、収穫した野菜等は、直売所での販売や学校給食への提供を行っている。



畦畔草刈りの省力化（左は農道ターン）



施設園芸：トマトの収穫

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：妙高市及び上越市
受益面積：5,832ha
事業期間：平成26年～令和5年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム1箇所、用水路L=6.7km、水管理施設、小水力発電施設

位置図（新潟県）



<問い合わせ先>

北陸農政局
農村振興部農地整備課
営農指導係
電話：076-232-4725

（令和2年度調査時点）